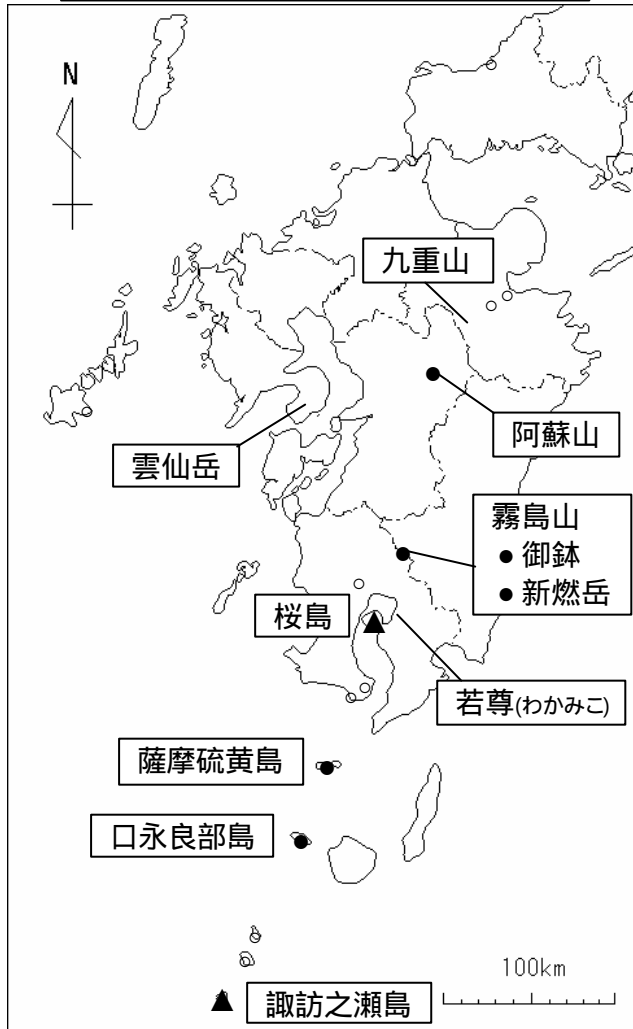


九州地方の火山活動解説資料 (平成 18 年 3 月)

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

九州地方および山口県の活火山



- ▲ : 噴火した火山
● : 活動が活発あるいはやや活発な状態にあった火山
○ : 解説を掲載した火山
○ : その他の火山

この資料は、気象庁のデータその他、大分県、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、阿蘇火山博物館のデータを利用し作成しています。本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」を使用しています(承認番号: 平 17 総使、第 503 号)。

九重山[静穏な状況(火山活動度レベル 1)]
火山活動に変化はなく、静穏に経過しました。

- 阿蘇山[静穏な状況(火山活動度レベル 1)] やや活発な状態(火山活動度レベル 2)]

24 日の現地観測で、中岳第一火口内の湯だまりの表面温度は、これまでの 60 前後から 70 以上と高くなりました。また、土砂噴出を観測するなど、火山活動はやや活発となりました。

火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳[静穏な状況(火山活動度レベル 1)]
火山活動に変化はなく、静穏に経過しました。

- 霧島山
[● 御鉢 : やや活発な状況(火山活動度レベル 2)]

火口縁を越える噴気が観測され、また火山性微動が時折観測されるなど、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

[● 新燃岳 : やや活発な状況(火山活動度レベル 2)]
火山性地震がやや多いなど、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

若尊(わかみこ)

28 日に鹿児島湾奥の若尊付近で地震がやや多発しましたが、変色水域等の異常はなく、火山活動に変化はありませんでした。

- ▲ 桜島[比較的静穏な噴火活動(火山活動度レベル 2)]

ごく小規模な噴火が時折発生しましたが、桜島の噴火活動としては比較的静穏な状況でした。

- 薩摩硫黄島[やや活発な状況(火山活動度レベル 2)]
噴煙活動はやや活発な状態で経過しました。

- 口永良部島[やや活発な状況(火山活動度レベル 2)]
火山性地震はやや多い状態が続き、振幅のやや大きな火山性微動が発生するなど、火山活動はやや活発でした。

- ▲ 諏訪之瀬島[活発な状況(火山活動度レベル 3)]

3 ~ 7 日に小規模な爆発的噴火が 243 回発生するなど、火山活動は活発でした。

今月及びこれまで公表した火山活動解説資料は気象庁 HP(<http://www.jma.go.jp/>)、福岡管区気象台 HP(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)に掲載しています。次回の火山活動解説資料の公表は、5 月 9 日(火)の予定です。

火山情報発表状況(平成 18 年 3 月)

火 山 名	情 報 名	発表日時	概 要
諏訪之瀬島	火山観測情報第 5 号	3 日 10 時 30 分	活発な状況（火山活動度レベルは 3 ） 爆発的噴火が多発し、火山活動は活発。
	火山観測情報第 6 号	10 日 11 時 10 分	活発な状況（火山活動度レベルは 3 ） 爆発的噴火が少なくなった状況。
口永良部島	火山観測情報第 1 号	22 日 16 時 10 分	やや活発な状況（火山活動度レベルは 2 ） 振幅のやや大きな火山性微動の発生。
阿 蘇 山	火山観測情報第 4 号	24 日 15 時 00 分	静穏な状況（火山活動度レベル 1 ）から やや活発な状況（火山活動度レベルは 2 ） 湯だまりの表面温度が高くなり、土砂噴出も観測。

雲仙岳

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは 1 (静穏な火山活動)でした。

2 概 況

火山活動に大きな変化は認められず、引き続き静かな状態でした。

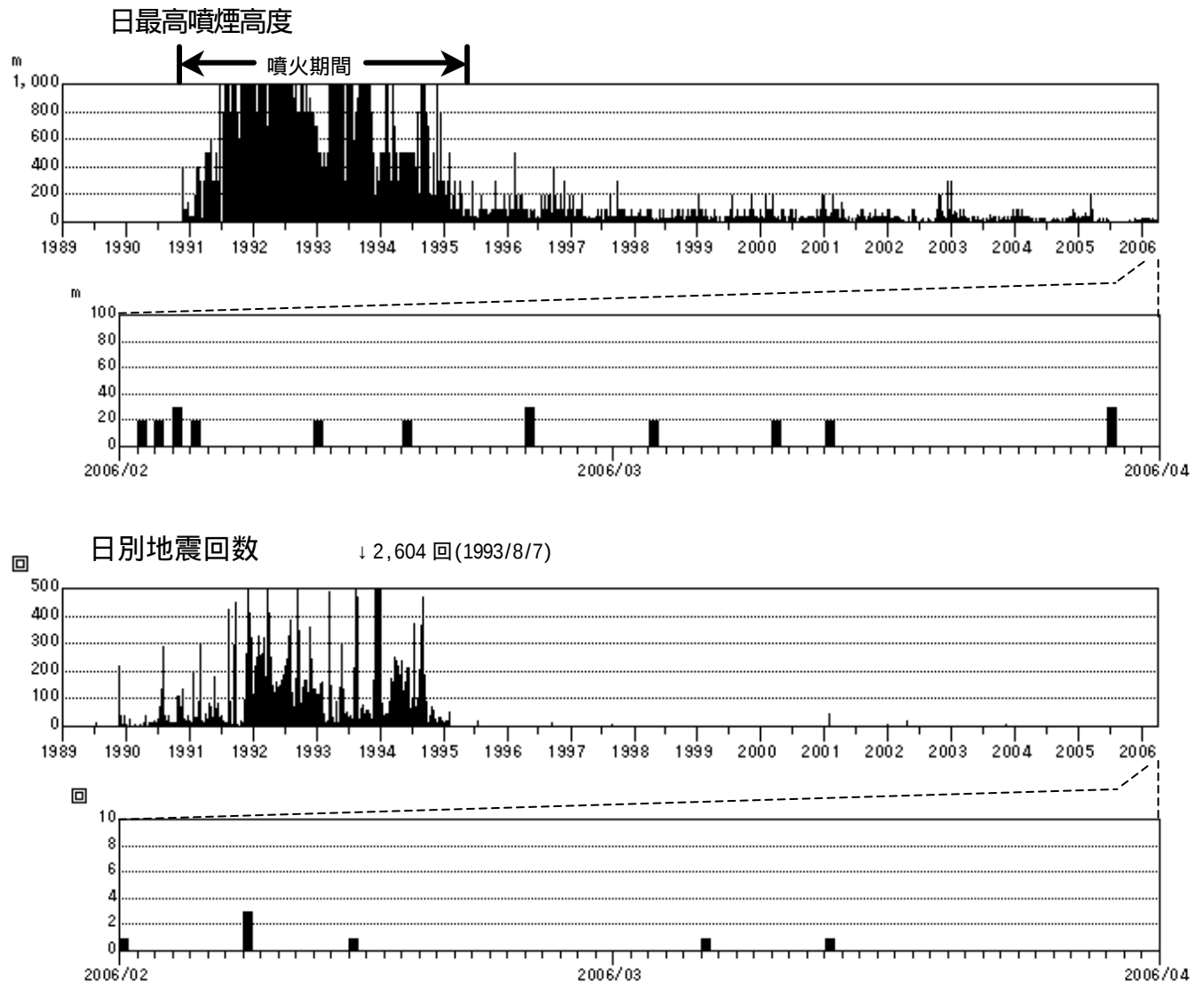


図 1 火山活動経過図(1989 年 1 月～2006 年 3 月)

- 2006 年 3 月の遠望観測で噴煙を時々観測し、高さの最高は 30m で、引き続き静穏な状態で経過しました(2 月：最高高度 30m)。
- 3 月の地震回数は 2 回(2 月：6 回)で、引き続き少ない状態で経過しました。
- 火山性微動の発生はありませんでした(2 月：なし)。

資料の作成に当たっては、気象庁のデータ他、九州大学のデータを使用して作成しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ(標高)』を使用しています(承認番号：平 17 総使、第 503 号)。

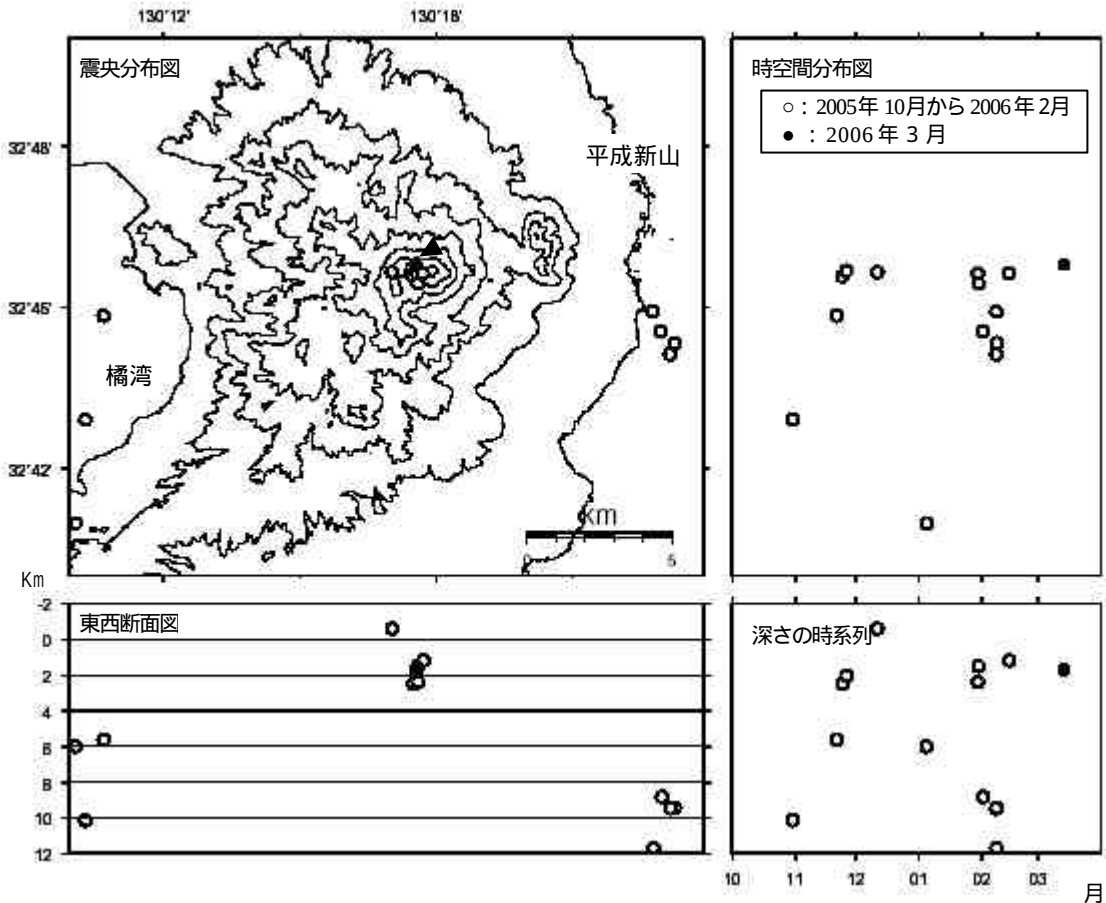


図2 火山性地震の震源分布図(2005 年 10 月～2006 年 3 月)

- 震源は、平成新山付近に 1 個求まりました。

本資料は、九州大学、気象庁のデータを用いて作成しています。

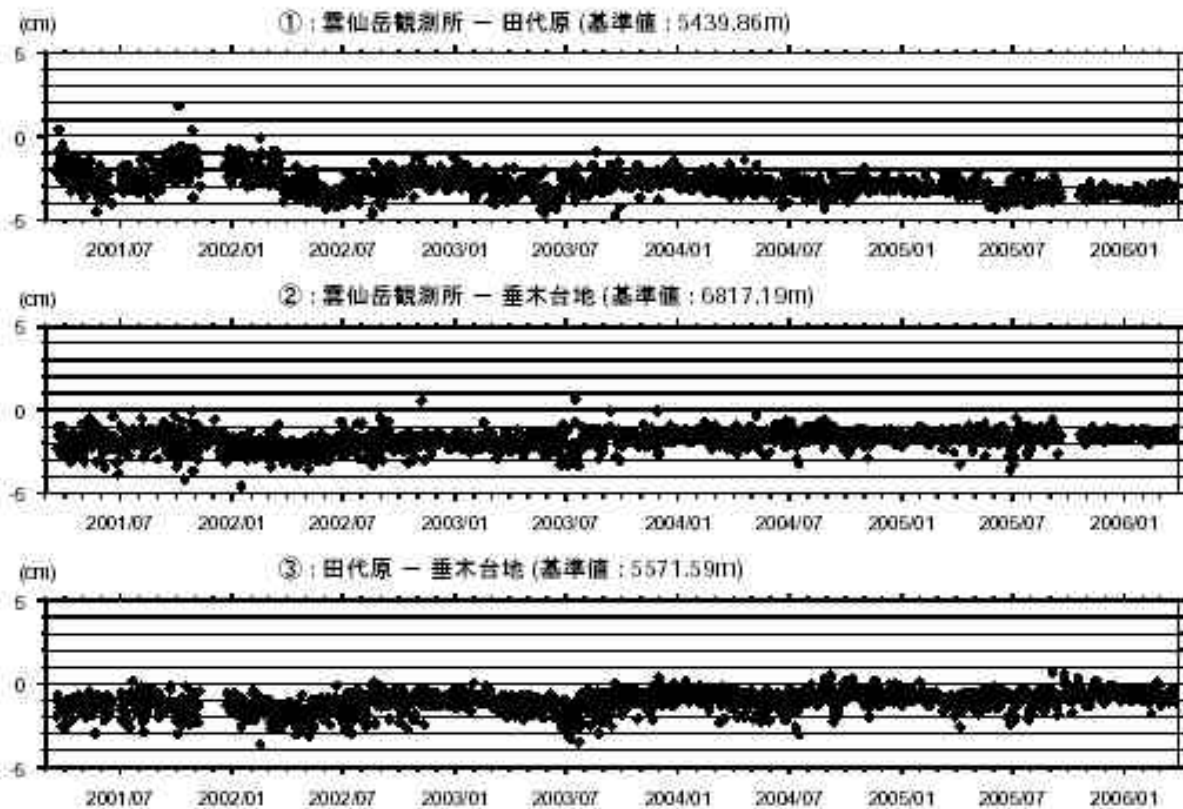


図3 GPSによる基線長変化(2001 年 3 月 20 日～2006 年 3 月 31 日)

- 火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

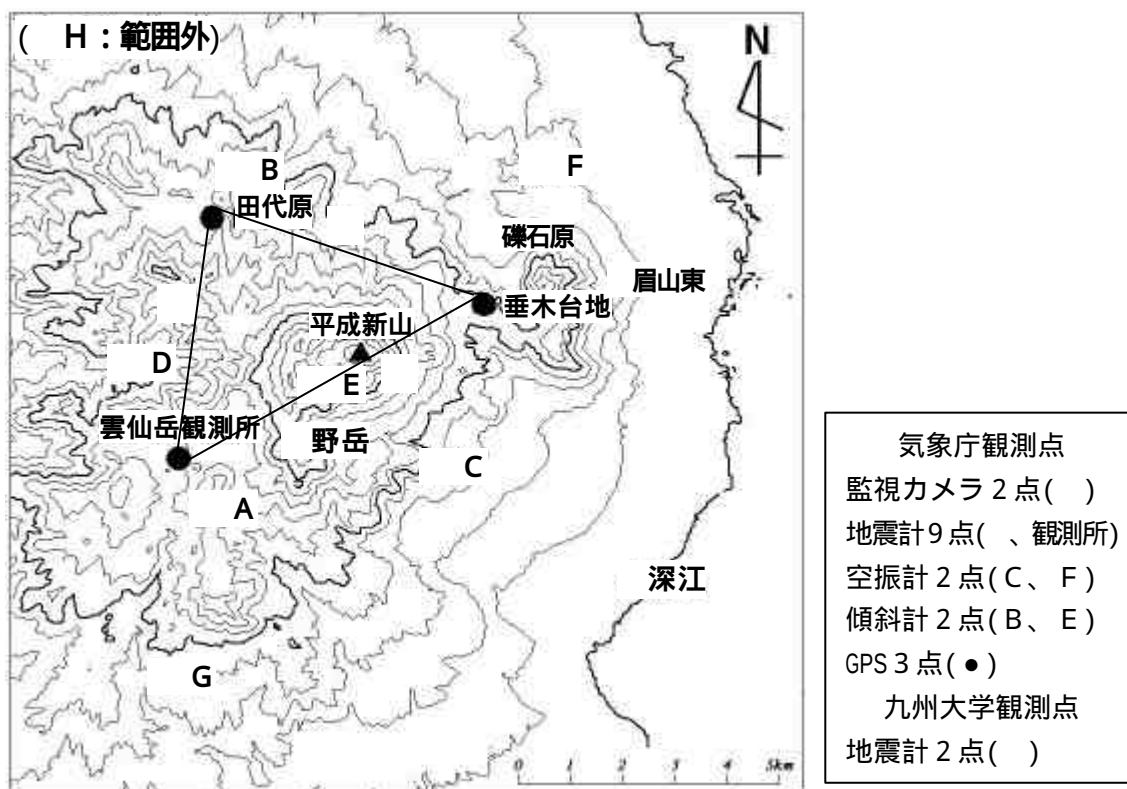


図 4 観測点位置図